

県議会やまがた

5月臨時会・6月定例会号

第42号 令和5年(2023年) 8月発行(年4回発行)



[6月定例会] 本会議

新 正副議長の紹介



第68代 副議長
こまつ しんや
小松 伸也
最上郡選挙区選出
(自由民主党)

県民の命や日常生活を守るため、また、県政の発展を成し遂げていくために、機動力をもって行動する議会を目指し、議長を力強く支えてまいります。



第35代 議長
もりた ひろし
森田 廣
酒田市・飽海郡選挙区選出
(自由民主党)

「和」の精神を大切に、守るべき伝統を守り、新しい時代への対応に取り組む。真に県民の負託に応える県議会の代表として、誠心誠意、より一層努力してまいります。

「県議会やまがた」第42号は、5月臨時会及び6月定例会の内容を中心に、5月から7月にかけての議会活動についてお伝えします。

目次

- ◆ 1ページ
新正副議長の紹介
- ◆ 5月臨時会の概要
- ◆ 6月定例会の概要
- ◆ 6月定例会の代表質問
採択した請願・可決した意見書
- ◆ 2ページ
6月定例会の一般質問
予算特別委員会の質疑
- ◆ 3ページ
政府の施策等に対する提案活動
- ◆ 4ページ
予算特別委員会の質疑
日沿道、東北中央道、羽越・奥羽本線関係の要望
- ◆ 委員会ギャラリーのご案内
- ◆ 委員会の構成
- ◆ 生徒・学生との意見交換会
- ◆ 広報・広聴委員会の紹介 など

5月臨時会の概要

5月17日から23日までの7日間の会期で開催され、議長・副議長、各常任委員会・特別委員会の委員や正副委員長を選任しました(委員会の構成については、4ページをご覧ください)。

また、令和5年度一般会計補正予算や県議会選出の監査委員の選任など、知事提案の6議案を可決・承認・同意しました。

6月定例会の概要

6月21日から7月10日までの20日間の会期で開催され、本会議で自由民主党及び県政クラブによる代表質問、3名の議員による一般質問を行い、さらに予算特別委員会での8名の委員による質疑や、各常任委員会での審査を経て、令和5年度一般会計補正予算など、知事提出の22議案を可決・同意しました。

代表質問から



自由民主党
加賀 正和 議員
(尾花沢市・北村山郡選挙区)

請願は5件上程され、2件が採択、2件が不採択、1件が継続審査となりました。意見書は2件発議し、原案どおり可決、国会・関係する府省に提出しました。主な質疑内容は、次のとおりです。

県が関わる重要施設の整備に対する考え方

更新や新設が必要な県有施設について、個別の事情を考慮したうえで整備目標年度を設定した「総合的な施設整備基本計画」を策定し、県民に示してはどうか。

施設の整備は一般的に多額の財政負担が見込まれることなどから、将来の世代に過度な負担を強いることがないよう、人口減少の影響なども考慮した長期的視点に立った政策判断が重要である。県民のニーズや県の課題などを踏まえ、県民との対話を重ね、その時々々の社会情勢も考慮しながら、適切に判断し進捗を説明していく。

米坂線の復旧に向けた県の取り組み

令和4年8月豪雨で被害を受け、現在も運休となっている米坂線の復旧に対する考え方はどうか。

災害で被害を受けたものであり、鉄道事業者が原状回復することが基本となるが、JR東日本が示す復旧費用は大きな金額であり、政府や自治体の一部負担も頭に置く必要がある。地域活性化に果たす役割や復旧後の利用拡大などを踏まえ、地域が納得する形で復旧を考慮することが重要である。まずはJR東日本の説明をよく聞いて、

新潟県や沿線市町村と相談しながら早期復旧に向けて全力で取り組んでいく。



県政クラブ
石黒 覚 議員
(酒田市・飽海郡選挙区)

新型コロナウイルスをはじめとする社会の変化を受けた施策展開

ポストコロナを見据え、どのような県づくりを目指すのか。

観光の復活など疲弊した地域経済の早期回復を図っていく。また、コロナ禍での生活スタイルの変化や価値観の多様化を踏まえ、デジタルやグリーンなど新たな成長につながる技術を取り込み、国内外の活力を呼び込みながら持続可能な山形県をつくっていく。医療・福祉の充実や生活サービスの利便性向上を図るとともに、自然災害に強い県づくりに取り組み、県民が安心して暮らし、幸せを実感できる県づくりを進める。

変化の激しい時代における中小企業・小規模事業者への支援の方向性と今後のあり方

中小企業などが生き残るための支援の方向性をどう考え、どう実現していくのか。

中小企業などが成長・発展するためには、戦略性のある経営や新事業などへの挑戦、それらを実践する人づくりに取り組む必要がある。多様な経営課題を抱える県内企業への支援を強化するため、来春を目標に経営力強化を支援する(公財)山形県企業振興公社と新技術・新製品開発を支援する(公財)山形県産業技術振興機構の再編を進め、支援機能の集約化と質的向上を図り、一元的で迅速な支援を行えるよう取り組んでいく。

持続可能な地域医療提供体制の確保に向けた地域医療構想の推進と新構想の検討状況

地域医療を取り巻く環境が変化中、地域医療構想の進捗と新たな構想の検討状況はどうか。

現在の地域医療構想については、高齢化の進行で必要性が高まる回復期病床が策定時と比較し700床程度増加するなど一定の成果が出ている。各医療機関が策定した病床機能に関する目標の達成状況を県が評価することが令和5年3月に制度化されたことなどを踏まえ、各地域の議論を喚起し、持続可能な医療提供体制を確保していく。現地域医療構想の推進と並行して現状や課題の把握・分析に努め、新たな地域医療構想について検討していく。

採択した請願

- 免税軽減制度の継続を求める意見書の提出について
- 食料・農業・農村基本法の見直しに関する意見書の提出について

可決した意見書

- 軽油引取税の課税免除措置の継続を求める意見書
- 食料・農業・農村基本法の見直しに関する意見書

※意見書の全文は、県議会HPからご覧いただけます。



一般質問から



自由民主党 伊藤 香織 議員 (山形市選挙区)

リトルベビーハンドブックの作成

低出生体重児と母親、家族の不安に寄り添うため、リトルベビーハンドブックを作成すべきと考えるがどうか。

低出生体重児に対する支援は、赤ちゃんの健康管理だけでなく、保護者も含めた多面的なケアが必要となる。また、周産期医療や地域の保健機関との連携など、広域的、専門的な対応が重要である。県としては、市町村や保護者で組織する団体、小児医療の専門家などの意見を丁寧に関きながら、ハンドブックの作成に向けて対応していく。

※リトルベビーハンドブック：小さく生まれた赤ちゃんを育てるうえでの留意点などを盛り込んだ育成支援のための手帳。

県体育館・武道館の建て替え

県体育館及び武道館について、代替施設の整備が必要と考えるがどうか。

天童市にある県総合運動公園内に柔道場・剣道場を備えた総合体育館を整備しており、代替施設は整備済みと認識している。県スポーツ推進計画において、地域住民が日常的にスポーツに親しむための施設は、市町村が整備することを基本としている。所在地の山形市による対応・検討

が基本になると考えるが、引き続き意見交換を重ねていく。



県政クラブ 石川 正志 議員 (新庄市選挙区)

東北農林専門職大学(仮称)の将来ビジョン

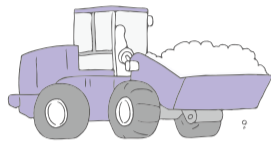
卒業生の県内定着に向けた関係者との連携、学生生活の環境整備、他産業との連携についてはどうか。

実習先や地域住民との交流、キャリアサポートセンターの設置により県内就職・就業を支援するほか、高校生の入学意欲を喚起する取り組みを行う。また、学生の住宅やバス停の新設など生活環境の整備、民間企業と連携したICTを活用した共同研究が進められている。本県の農林業発展の大きな力としたい。

県管理河川敷地内における降雪場の確保

冬季の道路交通を確保するために除排雪は大きな課題である。県管理河川敷地への運搬排雪について柔軟に対応すべきと考えるがどうか。

市町村が河川敷地内に降雪場を設置する場合、降雪前に河川法に基づく占用申請を河川管理者に行う必要がある。県は安全性や周辺環境への影響を勘案し許可しており、集中的な豪雪など緊急の場合は手続きを事後とするなど柔軟に対応している。今後とも市町村の課題共有に努めていく。



自由民主党 石塚 慶 議員 (鶴岡市選挙区)

農業における燃油・生産資材高騰対策

物価高騰に影響されにくい持続可能な農業生産体制の維持に向けた取り組みはどうか。

県では、令和4年度補正予算により肥料代への補助や、肥料コスト低減のための取組みに対する支援を行った。



さらに、加温時期の工夫など燃料コストを低減する技術の普及や、堆肥の活用を促進し化学肥料の使用を減らす取組みを進めている。

子育て世代に選ばれるための独自施策と県こども計画策定の考え方

本県独自の子育て支援策と、市町村と連携した県こども計画策定の考え方はどうか。

県では、0〜2歳児の保育料負担軽減や、多子世帯に対する放課後児童クラブの利用料軽減といった独自の支援を実施している。新たな県子ども計画は来年度中に策定する予定であり、本年度は基礎調査などに着手する。子育て世代など関係者からの意見聴取や市町村への情報提供を通して、実効性の高い計画となるよう取り組んでいく。

予算特別委員会の質疑



自由民主党 阿部 恭平 議員 (寒河江市・西村山郡選挙区)

西村山地域の医療提供体制

これまでの検討状況と今後の進め方はどうか。

昨年度設置した西村山地域医療提供体制検討会において、県立河北病院と寒河江市立病院の統合を軸に検討を進め、新病院では中等度から比較的軽度な救急や回復期に対応する案を示した。今年4月にワーキンググループを設置し、西村山地域全体の医療ニーズをより詳細に分析する予定である。引き続き関係者から意見を聞きながら医療提供体制を検討していく。

県立高校への県外入学者の受け入れ

県外入学者の受け入れを拡大すべきと考えるがどうか。

本県では県外生受け入れを平成30年度入学生から実施している。令和5年度の実績は4校17名であるが、近年、県立高校の定員充足率が大きく低下していることを踏まえ、令和6年度入学者選抜から新たに3校5学科を加える。募集に当たり、学校の特色や地域の魅力、生活支援策などが確実に伝わるよう関係団体と連携して取り組み、県外生の受け入れを拡大できるよう努める。



日本共産党山形県議団 関 徹 議員 (鶴岡市選挙区)

性の多様性を始め人権を尊重する基本条例とパートナーシップ宣誓制度

性の多様性を尊重するための基本条例の制定など、取組みを進めるべきではないか。

県では、多様性が尊重される社会づくりに向けて、条例の制定やパートナーシップ宣誓制度の導入を視野に取組みを進めている。性の多様性に係る状況把握と課題整理、制度導入に向けた調査研究を進めるとともに県民を対象とした理解促進セミナーの開催により意識の醸成を図るなど、性の多様性を尊重する取組みを着実に進めていく。

コロナ病床確保に不可欠な看護職員の処遇改善

医療機関においてコロナ対応に当たる看護職員の状況把握及び賃金などの処遇改善をどう進めるか。

県内の医療機関で働く職員から、看護体制の見直しや賃金引き上げなどの処遇改善を求める意見を伺っている。医療現場の最前線で働く方々の職責や負担に見合った処遇改善は極めて重要であり、その円滑な実施とともに必要な財源の確保や公平性を損わない適切な制度設計について政府へ強く要望していく。



自由民主党 高橋 弓嗣 議員 (東根市選挙区)

部活動の地域移行に向けた指導者の確保・育成と支援

指導者の確保・育成をどう進めるのか。また小規模な市町村における移行に向けた体制構築をどう支援するのか。

指導者確保のため競技や指導経験のある退職教員・保護者などと連携・協力して人材を掘り起こし、受け皿となるクラブに周知し、マッチングを進める。また、指導者の把握や学校と運営主体などとの連絡調整などを担う人材を配置する市町村を支援するほか、研修会の開催などを通して人材の資質向上を図っていく。

政府の施策等に対する提案活動

6月8日、県や県議会、市町村などで構成する山形県開発推進協議会が、各府省に対し、令和6年度の政府の施策等に係る提案活動を行いました。

森田議長が吉村知事とともに、岡田内閣府特命担当大臣、小倉内閣府特命担当大臣、築文部科学副大臣、野中農林水産副大臣、清水国土交通大臣政務官及び里見経済産業大臣政務官に面会し、主要な項目について提案内容を説明し、意見交換を行いました。

提案の実現に向け、今後とも様々な機会を捉えて提案活動を行っていきます。

写真左手前から 加藤鮎子衆議院議員、遠藤利明衆議院議員、岡田直樹内閣府特命担当大臣、吉村美栄子知事、森田廣議長



子どもが一人でも利用できる居場所づくりの推進

無料や低額で利用可能な子どもの居場所に対し、どう支援するのか。

県では、運営のノウハウをまとめたハンドブックを作成・配布したほか、活動を総合的に支援するセンターを設立しサポート体制を整えるとともに、運営補助制度を創設するなど取組みの充実を図っている。また、団体の安定した運営に向け、好事例の情報提供を行うなど、立ち上がりから活動までを後押しし、居場所づくりの取組みが拡大・定着するよう進めていく。





自由民主党
梶原 宗明 議員
(酒田市・飽海郡選挙区)

水素の供給と活用

問 カーボンニュートラルの実現に向け水素の供給と活用をどう進めていくか。

答 県では、水素を「ゼロカーボンやまがた2050」の実現の一翼を担うエネルギーと認識している。今年度、プロジェクトチームを立ち上げ、部局横断により取り組み体制を整備した。酒田港でのカーボンニュートラルポートの形成に向けた取組みなどを踏まえながら、水素戦略の策定を進めている。また、水素ステーションの導入に対する支援制度を整備することとしている。

「つや姫」「雪若丸」の作付け面積

問 「つや姫」「雪若丸」の県外での栽培状況と、両銘柄の作付け面積拡大の展開方向はどうか。

答 「つや姫」は9県で奨励品種に採用されているが、価格については本県産の評価が高く差別化が図られている。「雪若丸」も奨励品種としての採用を働きかけていく。県産米については全国の需給動向を踏まえ、一定の価格水準を維持することを前提に適切な生産量を設定し、ブランド力の維持向上に取り組んでいく。



県政クラブ
橋本 彩子 議員
(寒河江市・西村山郡選挙区)

定住増にもつなげる郷土愛の醸成

問 小中学生の郷土愛の醸成に向けてどう取り組むのか。

答 郷土愛を醸成するためには、地域を知り、そこに住む人達と様々な形で関わり、地域の素晴らしさを実感する経験が不可欠である。



令和5年度新たに、中学に、地域の協力を得て、地域の魅力に触れ親しむことができるプログラムを創り、小学生と一緒に取り組むモデル事業を県内4地域で実施する。今後、こうした取組みを広く普及させ、山形県民の誇りと郷土愛の醸成に取り組んでいく。

兼業農家に対する支援

問 農地や集落を維持する役割を果たす兼業農家に対する支援の状況はどうか。

答 事業要件などで政府の支援対象とならない兼業的な中小経営体に対して、共同利用する機械や施設の導入経費を支援している。また、令和5年度から他の仕事を持ちながら新規就農する「半農半X」を目指す方などを対象に、就農体験の機会を提供し、経営継承の相談窓口を設置するほか、営農資金の助成や施設修繕、農業機械の導入経費などを支援していく。



自由民主党
五十嵐智洋 議員
(長井市・西置賜郡選挙区)

会計年度任用職員の勤務時間

問 若年女性の県外流出に歯止めをかけるための賃金向上に向けて、県自ら会計年度任用職員の勤務時間を見直すべきと考えるがどうか。

答 会計年度任用職員の勤務時間は業務量に応じて適切に設定している。制度導入時に給料月額の水準を引き上げ、新たに期末手当を支給するなど大幅な処遇改善を図った。

今後、勤勉手当の支給についても検討を進める。県庁職場に限らず、女性の正社員化や賃金向上に向けた取組みを引き続き進めていく。

県民河川・海岸愛護デー

問 大げや熱中症が発生しないよう安全な活動を住民に呼びかけ、危険箇所は河川管理者が対応すべきと考えるがどうか。

答 県では、参加者の安全確保を第一に考え、草刈機利用時の注意事項や危険箇所での作業自粛など安全に関する注意事項を周知している。また、大型草刈装置の購入や、建設業者から人力では対応困難な作業に協力してもらおうなど、草刈り作業の効率化や実施範囲の拡大に取り組んでいる。



県政クラブ
高橋 啓介 議員
(山形市選挙区)

ユニセフの地域組織設立

問 子どもの権利の普及と啓発のため、本県に国際連合児童基金(ユニセフ)の地域組織が設立されるよう、機運醸成を図ってはどうか。

答 日本ユニセフ協会には、地域で支援活動を行う拠点として、全国27の道府県に協定地域組織が設置されている。すべての子どもが将来にわたる幸福な生活を送ることができ、社会の実現を目指すことは重要であるため、県内における地域組織設立に向けた気運の醸成に努めていく。

日常生活用具給付等事業



日常生活用具給付等事業

問 障がい者などのニーズや実情に応じた用具が県内で公平に給付・貸与されるよう、市町村の取組状況を把握し、情報提供してはどうか。

答 対象用具は厚生労働省が参考例を示しているが、実情に応じて市町村が参考例以外の用具を対象としている例もある。市町村の自主性を尊重した上で、必要に応じて各自治体の取組事例などを情報提供しながら、効果的・効率的な事業実施が図られるよう取り組んでいく。



自由民主党
能登 淳一 議員
(村山市選挙区)

「子育てするなら山形県」の推進

問 令和4年の合計特殊出生率及び政府の少子化対策に対する評価と、今後の県の対策の方向性はどうか。

答 昨年の本県の合計特殊出生率は前年と同じ1.32にとどまったが、強い危機感を抱いている。政府のことも未来戦略方針では、本県が提案してきた保育士の配置基準改善などは盛り込まれた一方、0〜2歳児の保育料無償化には言及がなかった。若者の希望実現・子育て環境の整備・気運醸成に取り組んでいく。

地域医療構想に基づく医療提供体制の検討状況



地域医療構想に基づく医療提供体制の検討状況

問 医療需要の変化に伴う地域の中核病院を含む医療機関のあり方についての議論と合意形成の状況はどうか。

答 県内4つの二次医療圏ごとに、地域医療構想調整会議を設置し協議を行っている。地域医療構想の策定以降、これまでに23件の医療機関の対応方針について合意がなされ、急性期病床が減少する一方で必要性が高まる回復期病床が増加した。引き続きニーズの変化に即した医療提供体制の構築に取り組んでいく。

**県議会ギャラリーに
作品を展示してみませんか**

県議会では、県内の児童、生徒、学生の皆さんが学校の授業や部活動などで制作した作品を展示するスペース「県議会ギャラリー」を提供しています。

【展示対象】 工作、絵画、イラスト、ポスター、彫刻、書、写真、研究発表用ポスター など(展示用パネル・机は準備します。)

【展示場所】 県議会棟 1階ロビー
【展示期間】 1箇月以内
【展示費用】 無料

● 6月定例会中(6/21~7/10)は、東桜学館中学校・高等学校の生徒さんによる令和4年度の探究活動「未来創造プロジェクト」の研究内容をポスターで紹介しました。



**日沿道・東北中央道の建設促進と
羽越・奥羽本線等の高速化促進等を要望**

6月2日、東京都内にて、日本海沿岸東北自動車道・東北中央自動車道の建設促進、羽越・奥羽本線等の高速化促進に向けて各協議会(会長はいずれも山形県議会森田廣議長)の理事会を開催し、本県をはじめ、青森県、秋田県、福島県及び新潟県の5県議会から議長らが参加しました。

その後、国土交通省など関係機関に対し要望活動を実施しました。



日本海沿岸東北自動車道建設促進協議会理事会の様子

委員会の構成

【常任委員会】 令和5年5月23日現在（議席順による）

委員会名(定数)	正副委員長	所属委員名		
総務 常任委員会(8)	正 能登 淳一 副 浜間佳寿美	阿部ひとみ 森谷仙一郎	高橋 淳 伊藤 重成	木村 忠三 田澤 伸一
文教公安 常任委員会(7)	正 今野美奈子 副 遠藤 寛明	松井 愛 吉村 和武	佐藤 文一 榎津 博士	五十嵐智洋
厚生環境 常任委員会(7)	正 梶原 宗明 副 矢吹 栄修	江口 暢子 梅津 庸成	阿部 恭平 船山 現人	関 徹
農林水産 常任委員会(7)	正 相田 光照 副 石黒 覚	石川 正志 菊池 文昭	鈴木 学 奥山 誠治	石塚 慶
商工労働観光 常任委員会(7)	正 青木 彰榮 副 柴田 正人	石川 渉 高橋 弓嗣	橋本 彩子 森田 廣	伊藤 香織
建設 常任委員会(7)	正 遠藤 和典 副 加賀 正和	齋藤俊一郎 小松 伸也	相田日出夫 高橋 啓介	佐藤 正胤

【議会運営委員会】

委員会名(定数)	正副委員長	所属委員名		
議会運営委員会(12)	正 矢吹 栄修 副 吉村 和武	高橋 淳 梶原 宗明 加賀 正和 伊藤 重成	青木 彰榮 五十嵐智洋 森谷仙一郎	石黒 覚 柴田 正人 榎津 博士

【特別委員会】

委員会名(定数)	正副委員長	所属委員名		
予算特別委員会(41)	正 浜間佳寿美 副 石黒 覚	議長・副議長を除く全議員		
防災減災・持続可能な 地域づくり対策 特別委員会(9)	正 梅津 庸成 副 遠藤 和典	江口 暢子 今野美奈子 菊池 文昭	阿部 恭平 相田日出夫	鈴木 学 佐藤 正胤
子育て支援・ 生涯活躍対策 特別委員会(9)	正 阿部ひとみ 副 相田 光照	石川 渉 伊藤 香織 田澤 伸一	橋本 彩子 佐藤 文一	石川 正志 能登 淳一
産業人材確保・ 生産性向上対策 特別委員会(9)	正 遠藤 寛明 副 木村 忠三	齋藤俊一郎 関 徹 船山 現人	松井 愛 高橋 弓嗣	石塚 慶 浜間佳寿美

山形県議会女性・若者 参画推進会議の設置

7月10日、女性や若者を中心に県民の県議会への関心を喚起するとともに、参画を促していくための各種調査や提案等を検討するため、「山形県議会女性・若者参画推進会議」を設置し、同日、座長に榎津博士議員、副座長に高橋啓介議員を選出しました。



生徒・学生との意見交換会を開催

生徒・学生の皆さんに県議会を身近に感じてもらう、主権者としての政治参加意識の醸成を図ることを目的に、県議会議員との意見交換会を開催しています。

7月13日に、県立米沢商業高等学校において、商業研究部の活動発表「やまがたのイメージカラーを紅色にする提案」、生徒会役員の「魅力ある米沢にするには」をテーマに実施し、高校生の視点からの率直で活発な意見が交わされました。



活動団体等との意見交換を実施

県民の皆さんの多様な意見を県政に反映する広聴機能を強化するため、常任委員会の現地調査において意見交換を行いました。

総務常任委員会

7月19日に、村山市の地域おこし協力隊の皆さんと、コロナ禍における活動やコロナ後に向けた活動について意見交換を行いました。



厚生環境常任委員会

7月19日に、地域づくり応援団キラッとO~RA☆DAの皆さんと、女性の活躍や男女共同参画の推進に向けた地域づくりについて意見交換を行いました。



農林水産常任委員会

7月27日に、県立置賜農業高等学校にて、生物生産科の3年生の皆さんから畜産を志望したきっかけや将来の目標などをお聞きして意見交換を行いました。



商工労働観光常任委員会

7月24日に、飯豊町観光協会の皆さんと、コロナ禍後における訪日外国人誘致の取組みについて意見交換を行いました。



山形大学の学生との座談会を実施

若い皆さんに県議会に関心を持ってもらうため、平成28年度から、若者向け広報誌「県議会ナビ」を年1回発行しています。取材や編集には県議会と連携協定を締結している山形大学の学生の皆さんから協力をいただいています。

このたび、最新号の制作に向け、山形大学の学生4名を県議会図書室にお招きし、広報・広聴委員3名との座談会を実施しました。

学生の皆さんからは、県議会議員の普段の活動や苦勞、やりがいなどについて質問があり、なごやかな座談会となりました。



広報・広聴委員会の紹介

県議会では、議会活動などを情報発信する**広報機能**と、県民の皆さんのご意見を県政に反映するために広く意見を聴く**広聴機能**を充実させるため、「広報・広聴委員会」を設置し、「開かれた県議会」の実現に向けて取り組んでいます。

本委員会は、この「県議会やまがた」の編集内容も検討しています。今年度も、県民の皆さんに県議会に対するご理解をさらに深めていただけるような紙面づくり・情報提供に努めていきます。



前列左から
相田光照委員、遠藤和典委員長、梅津庸成副委員長、五十嵐智洋委員
後列左から
佐藤文一委員、佐藤正胤委員、相田日出夫委員、松井 愛委員、
石川正志委員、石川 渉委員

県議会は、年に4回（2月・6月・9月・12月）定例会を開催します。
「県議会やまがた」は、各定例会の概要などをお知らせします。

編集・発行 **山形県議会**

〒990-8570 山形市松波2-8-1 TEL 023-630-2846
<https://www.pref.yamagata.jp/kensei/assembly/index.html>

山形県議会

